

「ヘルス・データ活用による健康増進に係る取組についての評価基準」**取組事例について**

◆歩数管理アプリ等の登録者数増加やアプリ参加者の平均歩数増加のために実施した取組

【取組①】とだウエルネスマイレージ抽選会

- ・実施時期：令和8年2月9日
- ・対象者：市民
- ・取組内容：コバトンALKOOマイレージアプリを利用しており「令和7年12月の1か月間における1日平均歩数が7,000歩以上」の方を対象に、抽選会を実施。協賛意向をいただいた9企業及び団体から提供を受けた7種類の賞品について、当選者に発送した。
- ・結果/効果：エントリー要件を満たす1,767人を対象に抽選を実施し、770人（約4割）が当選。市独自抽選会の抽選条件設定月である12月の平均歩数は、年間で最も多く、7,004歩（県内1位）であった。

【取組②】保健事業連携による二次元バーコードポイント付与

- ・実施時期：令和7年6月～2月
- ・対象者：各保健事業やイベントに参加した市民
- ・取組内容：福祉保健センターで実施する健康教室や市民向けイベントにおいて、「二次元バーコードポイント」によるマイレージポイントを付与。令和7年度は新たに「健康福祉の杜まつり」会場において、マイレージアプリ啓発ブースを設け、マイレージポイントの付与およびアプリの新規登録勧奨を実施した。
- ・結果/効果：福祉保健センターで企画運営する17の保健事業と連携し、年間累計155名にマイレージポイントを付与した。健康福祉の杜まつりでは、100名にマイレージポイントを付与した。

◆歩数管理アプリ等に関連した健康増進事業の中で感じた課題等

- ・アプリ登録者数増加の一方で、継続利用していないノンアクティブ者の割合も増加傾向にある。一定期間操作がない場合にアプリ内の記録が削除される「90日間ルール」の周知および再登録を促す個別通知等を実施した結果、一時的にノンアクティブ者増加に歯止めがかかることが確認できた。今後も、ノンアクティブ者に継続的なアプローチを行い、アプリの「継続利用」を促進していくことが課題である。
- ・保健事業と連携したマイレージポイント付与については、本事業の周知や新規登録者数の増加につながる効果が見られた。一方で、連携事業が福祉保健センターの実施事業に限定されているため、次年度以降、他課事業と連携し、新規登録イベントを実施するなど、さらなる登録者の増加を図ることが課題である。